

第24回「野生生物と社会」学会大会(九州大会) 公開シンポジウム 「屋久島における人と自然の共存」



世界自然遺産地域に登録された屋久島の人々は昔から人間と自然のバランスを取りながら生活してきた。しかし、ヤクシカが増加したことによる被害や生物多様性に対する影響が生じており、人と自然の関わり方が絶えず問われている現場でもある。人と自然の共存を考えられている立場の異なる方々に集まっていただき、自然に相対する視点から屋久島における人と自然の共存を考えていきたい。

日時: 2018年11月24日(土) 15:15~18:15
場所: 九州大学・伊都キャンパス(福岡市西区元岡744)
稲盛財団記念館 稲盛ホール
入場無料・事前申込不要

プログラム

1. 開会の挨拶

矢原 徹一 (九州大学理学研究院/大会長)

2. 趣旨説明

細谷 忠嗣 (九州大学持続可能な社会のための決断科学センター)

3. 基調講演1 「—資源としての屋久島、利用と保全の葛藤のはざままで—」

手塚 賢至 (屋久島照葉樹林ネットワーク代表)

4. 基調講演2 「屋久島におけるヤクシカ対策について」

柘植 規江 (環境省九州地方環境事務所屋久島自然保護官事務所)

5. 基調講演3 「ヤクシカと森の共存を支える人間の役割」

矢原 徹一 (九州大学理学研究院)

～ 休憩 ～

6. 総合討論

司会進行: 細谷 忠嗣

